横浜市立 東山田小学校　　令和8年度

中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

学校教育目標

一人ひとりが　かがやく　東山田小
〇学び続ける子ども（知）…学習の基礎・基本を着実に習得し、積極的・発展的に学び続ける子どもを育てます。
〇自分を創る子ども（体・公）…生命を大切にし、社会の一員としての姿勢や資質を身に付け、社会のために行動する子どもを育てます。
〇共に生きる子ども（徳・開）…思いやりをもち、様々な人とのコミュニケーションを通して、社会の視野を広げる子どもを育てます。

教育課程全体で育成を目指す資質・能力	具体化した資質・能力
＜言語能力＞ ＜自分づくりに関する力＞	【高学年】・問題を認識する力　・自分らしさを発揮しようとする力　・多様な価値観を理解する 【中学年】・問題を発見する力　・自分を理解する姿勢　・相手を理解する態度 【低学年】・事実を大まかにとらえる力　・好奇心　・基本的な生活習慣　・主体的積極的に人と関わろうとする姿勢　・家族や友人を愛する気持ち

中期取組目標

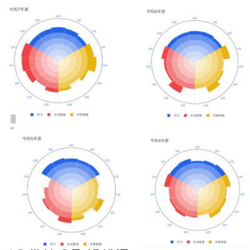
〇子ども一人ひとりの思いを大切にし、ICTを活用しながら、主体的・対話的な学びを充実させます。
・1年目は、子どもが学習の楽しさを実感できる授業づくりを推進します。
・2年目は、子どもの表現を大切にしながら伝え合う力を育てます。
・3年目は、伝え合うことで対話的な学びを充実させ、自分の考えを深めることができるようにします。
〇まちの「人」とのつながりを意識し、豊かな体験を通して、まちを愛する心を育てます。
・3年間を通して、子どものまちへの思いを引き出し、豊かな体験から自己有用感をもてるようにします。
〇日々の観察とデータを活用しながら、子ども一人ひとりの変化を捉え、学びの充実に生かします。

学力向上アクションプラン

重点取組分野		具体的取組
生きて はたらく知		①授業のユニバーサルデザイン化を推進し、児童が見通しをもって学べる授業づくりを進める。②ICTを日常的に活用して学習の記録を残し、児童が自らの学びをふり返ることができるようにする。③相手や目的を意識した言語活動を継続し、児童が人と豊かに関われるようにする。
担当	教務	

学力向上に関わる本校の状況

（1）学力に関わる本校の実態
　令和7年度横浜市学力学習状況調査の結果は、児童の学力はどの学年も5%ほど平均値を上回っており、基礎基本の力が身に付いている児童が多く、学習に対して意欲的に取り組むことができているといえる。傾向としては、学力が高いほど「自分の考えを相手にわかるように伝えようとしていますか」「学級の友達と話し合う活動を通して自分の考えを広げたり深めたりしていますか」といった対話に関する意識調査で肯定的な回答が多く見られた。
　生活意識調査で肯定的な回答が多い児童ほど、学力調査での正答率が高い傾向にある。過去3年間と比較して、学校全体として肯定的な回答が多くなった。



（2）これまでの学校の取組状況
　自分の思いや考えから計画を立て、調べたり創作したりする学習を大切にしてきた。今後は、児童が自らを評価しながら学習を進めることができるようにする必要がある。また、ICT端末については、正しい使い方について学習を進めながら、個別の学習や協働的な学びの中で活用していく。

今年度の目標

　子どもたちの学びを「個別最適」かつ「協働的な」学びにするため、教師自らもその実践者になるような方法で研究を行い、対話的な学びを引き続き大事にしていくことで、学校教育目標「一人ひとりがかがやく東山田小」を具現化した子どもの姿が見られるようにする。

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期	①授業のユニバーサルデザイン化、教科分担制の取組、算数における習熟度別学習等、授業の工夫改善を通して、だれもが安心して参加できる授業や、個に応じたきめ細かな指導を実現させる。 ②重点研究では、児童の実態のアセスメントを丁寧に行い、児童の伸ばしたい力やよさを見取り、教師一人ひとりが具体的にテーマを決めて、研究に取り組む。例「だれもが楽しいと思える授業のユニバーサルデザイン化」「Y-Pプログラムの実践」「友達との関わりを大切にした児童主体の授業」 ③だれもが、安心して授業に参加できるように、全職員で共通した指導を進める。
下半期	①体験的な学びを充実させて、学ぶことの楽しさを実感させ、学習意欲をさらに高めるとともに、対話的な学びになるような授業をめざし、学びの質を向上させる。 ②グランドデザインに示した育てたい子ども像を目ざして授業のUD化、教科分担制の取組、算数における習熟度別学習等、授業づくりの工夫改善をさらに進める。 ③重点研では、各教師が決めたテーマで「個別最適」かつ「協働的な」研究を進め、児童の学びが「個別最適」かつ「協働的な」ものになるようにしていく。

豊かな心の育成推進プラン

重点取組分野		具体的取組
豊かな心		①異年齢交流を定着させ、学年に応じた地域との交流を進める。児童が様々な人と関わることで、自己肯定感や自己有用感をもてるようにする。②児童が挨拶をすることのよさを感じ、進んで挨拶を行えるような取組をさらに進める。③道徳科授業の充実や人権週間の取組を継続し、心の教育を推進する。
担当	児童指導	

豊かな心に関わる本校の状況

（1）豊かな心に関わる児童の実態
　学習意欲が高い児童が多く、真面目に取り組む姿が見られる。
　友達を受容し、個々のよいところを認め合える児童がいる一方で、集団の中での振る舞いや、自分の思いを言葉で伝えることに課題のある児童、自分に自信がもてず他者との関わりを避けてしまう児童が一定数見られる。
（2）これまでの学校の取組状況
　児童の実態を的確に把握するため、Y－Pアセスメントを基にした横浜プログラムを活用したり、生活アンケートを定期的に実施したりした。児童一人ひとりが抱える「困り感」の早期発見に努め、日々の観察や教育相談を通じて、だれもが安心して学校生活を送れるよう、きめ細やかな支援をしている。

今年度の目標

　自分の思いや気持ちを自分の言葉で伝えたり、相手の気持ちを聞いたりするなど、他者と関わりながら社会性を学び、自己肯定感、自己有用感を高めていくことを目指す。

目標を実現するための具体的行動プラン

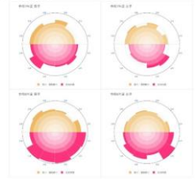
上半期	①児童一人ひとりが、一定の道徳的価値の含まれるねらいと関わりにおいて自己を見つめられるよう、各教科と関連付けながら道徳の授業を展開する。 ②学級活動で自分の役割を理解し、係活動等に取り組むことで自他のよさを認めやすくし、自己肯定感を高める。 ③異年齢交流や地域との関わり等を通して、思いやりの心を育てる。 ④職員が意識的に児童に挨拶を行い、児童が挨拶のよさを体得することを通して、社会性を身に付け人と豊かに関わる児童を育成する。 ⑤子どもの課題に向けた取組として、社会的スキルを身に付けられるように、学級の実態に応じて子どもの社会的スキル横浜プログラムを活用する。
下半期	①上半期の行動プランを見直しながら、新たに下半期の行動プランを決定・実行していく。 ②児童一人ひとりが、一定の道徳的価値の含まれるねらいとかかわりにおいて自己を見つめられるよう、各教科と関連付けながら道徳の授業を展開していく。 ③人権週間では、自己肯定感を高める活動に全校で取り組む。発達段階に応じて道徳的価値を内面的に自覚し、主体的に道徳的実践力を身に付けられるようにする。 ④職員が意識的に児童に挨拶を行い、児童が挨拶のよさを体得できるようにすることを通して、社会性を身に付け人と豊かに関わる児童を育成する。 ⑤社会的スキルを身に付けられるように、学級の実態に応じた子どもの社会的スキル横浜プログラムを活用する。 ⑥「自分も相手も大切にする」ことをテーマに職員研修を行う。

健やかな体の育成プラン

重点取組分野		具体的取組
健やかな体		①保健委員会の児童による健康意識を高める取組を行い、全校で実践できるようにする。②運動委員会の児童による運動集会等の企画及び提案を行い、全校で実践できるようにする。③運動遊びを推奨し、児童が日常的に運動に取り組むことができるようにする。④ブロック共通で性教育の充実に取り組む。
担当	学校行事	

健やかな体に関わる本校の状況

（1）健やかな体に関わる児童の実態
　令和7年度新体力テストの結果は、体力・運動能力のほとんどの項目で市平均と同様であった。一方生活実態については、ほとんどの項目で市平均と同様であったが、昨年度と比べると肯定的な回答が若干減少していた。
　また、視力検査の結果は、高学年になるにつれ低下する傾向が見られた。目の健康について考える機会をもつ必要がある。さらに、歯については、罹患率は少ないものの、「歯のよごれ」を指摘される児童が多い傾向は昨年と変わらない。



（2）学校の取組状況
・運動、給食、保健の3委員会が健康教育に関係する取組を行っている。取組を通して、個人の生活を振り返り、自分に必要な健康習慣が何かを考え、日々の生活に取り入れられるよう、各委員会が常時活動を工夫している。
・保健室来室児童の中には、心の面が原因で来る児童も増えてきているという実態があったので、令和7年度は「伝えよう！感じよう！自分と相手のこころ」を学校保健委員会のテーマとして、全校で取り組んだ。
・令和7年度より、中学校ブロックで共通して外部講師による性教育に取り組み始めた。また、いのちの安全教育を全学年で実施した。

今年度の目標

　自らの健康や体力に関心をもち、継続して心と体の健康保持や体力の向上に取り組める子どもを育む。

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期	①保健では、学校保健委員会で目の健康を取り上げ、自分の生活に向き合い、課題解決のための取り組みを各自で行う。歯科保健事業では、自分の歯の磨き方に注目し、正しい「歯磨き」の習慣を推進する。また、夏休みに家庭と連携しながら正しい歯みがきの習慣化を目指す。養護教諭と担任が連携し保健学習や健康指導を行う。 ②食育では栄養職員が担任と連携し教科と関連した食育の推進を行う。 ③運動では昨年度の体力テストの結果を生かし、体育授業、体力向上週間等を通して、全校で体力向上を目指す。 ④学校保健委員会では、児童の保健・給食・運動の3委員会が、児童の健康の保持増進について発信していけるよう年2回全校集会を行う。 ⑤体力向上や運動習慣を身に付けるため、今年度は休み時間を活用して様々な運動に関われる企画を考案する。 ⑥学級活動(2)ウでは、養護教諭の協力を得て指導にあたり、心身ともに健康で安全な生活態度の形成をめざす。
下半期	①保健では、学校保健委員会で目の健康を取り上げ、自分の生活に向き合い、課題解決のための取り組みを各自で行う。歯科保健事業では、自分の歯の磨き方に注目し、正しい「歯磨き」の習慣を推進する。養護教諭と担任が連携し、保健学習や健康指導を行う。 ②食育では栄養職員が担任と連携し、教科と関連した食育の推進を行う。 ③運動では昨年度の新体力テストの結果を生かし、体育授業、体力向上週間等を通して、全校で体力向上を目指す。 ④学校保健委員会では、児童の保健・給食・運動の3委員会が、児童の健康の保持増進について発信していけるような取組を行う。 ⑤体力向上や運動習慣を身に付けるため、今年度は休み時間を活用して色々な運動に関われる企画を考案する。また、冬場は体を動かすことが減るので、運動が苦手な児童も楽しみながら体を動かすことを目的として運動集会を設定する。 ⑥学級活動(2)ウでは、養護教諭の協力を得て指導にあたり、心身ともに健康で安全な生活態度の形成をめざす。